

増補 倭字 和字 全

811.56
Ka183w

077351-000-3

811.56-Ka183w

和字解

貝原 益軒 / 著

〔刊年不明〕

DAC-0567



211.56ka 103w

貝原益軒著述

增補假字考

浪書館發行

和字解叙

用國字之法先輩既有其書但
未知其真偽或雖傳其真恐古
昔草昧之議論未精詳乎且或
數百年之間傳寫之誤失其真
亦未可知何其義理之不明也
是以其說往往模糊不通雜沓
不專讀者惑矣竊謂天下之事

210663

811.56Ka 183w

萬田

和字解叙

用國字之法先輩既有其書但
未知其真偽或雖傳其真恐古
昔草昧之議論未精詳卒且或
數百年之間傳寫之誤失其真
亦未可知何具義理之不明也
是以其說往往摸糊不通雜沓
不專讀者惑矣竊謂天下之事

振壇

不出乎理外論事者苟不以理
斷之則將何以爲據乎哉右和
字解一卷採舊說之可用者且
考於日本紀萬葉集和名抄古
今和歌集等之古書訂之以和
音五十字間加臆說以斷其理
只恐僭率之至不免妄謬之罪
博雅之君子改正之惟幸

元祿己卯花朝日

貝原篤信書

和字解

貝原篤信著

假字遺の法一にハわいゝゑた五字の
 同音れ字と和音五十字の相通りり
 各よろした西の用ゆると二にハ五音も内
 六色の輕重よよりて用ゆるまかゝれと
 三にハ同合のかゝとりまゝなるふりの是と
 かたろひの三要と凡ゆるづの事理あり
 ぶゆりぬ〜理とまゝしとみづりに

なれ事ハ必ちやゆつらり又理か〜
 法を定むるハまづもや古人のかゝばいひの
 法式は〜をえとるハ裁ふ〜
 かな〜後せれ人かゝの理の通る〜
 かゝと〜ゆりゆのいきと〜ハ小児の繼
 せゆ〜
 おれおをま〜又庸醫のたおれ意と
 ち〜

和字解

三

昔の字がぶと〜吉人の字をよとよ
とよ〜バけうれ〜かな〜か〜は〜ら
又あ〜り 和字と用ゆるあ〜ら〜りつ〜は〜は
かあ〜のら〜は〜のら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
大法五字と類をあげ〜ら〜ら〜ら〜ら
和字解用合のら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
ゆる理ととら〜る〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
習ひ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

い〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

凡假字遺を定むるはわい〜ら〜ら〜ら〜ら
五十字の相通ととら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
かあ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

縦相通

あいうえを
かきくけこ
さしすせう
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆえよ

横相通

らりるれろ
わいうえを
あかさたなはまやらわ
いきしちにひみかりい
うくすつぬふむゆるう
ひけせてねへめひれえ
をころこのほもよろね

五類

わいりゑに
又字の類なり

○わはらは中と下とにけむれも同

○いはのい大概よいたみ用

中のお大概はよたよ用ひおふ通ひぬ

取よ用也

奥乃ひい又字よりよんまよ用也

○うはのう

後れふ中と下とにまとうと音同

○へはのへよは中と下とふ用いれはと音同

○お奥のれよみの中と下とに用いれはと音同

字と音同

凡かぶつひのものちは大や

又類小は中奥いろいろはの

後の次中なりとのくまあふ

えはべ

よみの中下にあまき一からの中のをよみの中下あ
 かくとまやだまきやど〜う〜ひりり〜〇芭蕉
 順しゅんの和名わな抄しやうふをせをえとよませり古今集ここんしゅう物
 此名このなの香かふふをせをえとよませり古今集ここんしゅう物
 〇まよひの因いん縁えんまよふと目めの魚ういぬるさうさう後ごをせをえと
 人ひとふ〜け〜とよみ入いらうらう蕉せうの字じにせうの〜を
 かるどせせとよほせ〜事こと蹟あとをせりとよほし
 蔵くらせらにと訓ことば一文いちぶんとよほしとよほし紫むらさ苑えんを

志しをにと和わ洲しゅうせ〜ぬり同どうとねふ〜とがれ
 〇あまのあまの通とほ判はんまきま〜る言こと人の書かきとん念ねんて
 志し家け〜〜とよほし〜〇まよひのなな 琴こと譜ひら
 まよひのは〜梅村和字集まよひのなな 琴こと譜ひらまよひの
 まよひのなな 〇まよひのなな 琴こと譜ひらまよひの
 〇まよひのなな 〇まよひのなな 琴こと譜ひらまよひの
 〇わ和わ是これ後ごのよとよ音ね割わりとよよとよとよ

○か加 かう梅子 かう香 かう香 かう上野 かう

ほみ香包 かう講師 かう高力士 かう海

かう好車 かう香 かう高車 かう高

高巾子 かう唐車 かう香水

○た多 たう唐人 たう道 たう湯浴

たう豆腐 たう番椒

○れ和 れい雲場 れい療治

○ろ曹 〇つ通 法厨子 法法 法法

○ぬ念 〇な茶 な御受

○ら良 ら老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

○む舞 む老中

とらませり〇あふことまあふこといふべし
 りよこといあいうことありあいうみとい水うこの
 りなり遠のたまとなつこととせしきよとい
 こをのあいうみぬうむしきよのふ深なるあ
 うことあに近代い極ことかねに遠のといあふ
 をたあいうこといふり近のい都ふ近きあ
 うみあに是ふ近せりつあはうへいたなりあ
 のうへにらやとをつあふこといふくはうへ

音ふよりてとをたうこととら

〇か井きを中乃かとりし中れおとせりおれ
 字ハき一あ一くむをた音ふ初也くのきまより
 ねと一一字のふみふらふよと音の上一字の
 音れよみの下ふくむをたあうのいぬ字ハ田橋
 あら〇一字の刻ふあはる字とい井居猪ま
 蘭堰膽此類とかあよきふハ皆力の字用へ
 又とれぬ宿直まよか圓居ふすか卧猪あまか

○の農 ○た茂 是となくれおとらふ二字の訓
 類より出いづふおりにたよこゝの字の上は字ごとく大の字と
 御の字付る字はおとらふかあるなり○一字の訓
 とハ男 雄尾 御峽 面此 類なくのおなり是
 等の字よよもてと下ふもさくもたのさまへー
 たりき重 たうお高 雄ま のお松 尾か のお勝 尾尾 のお
 其面志 のれ賤 男み げのお水 尾た たる尾 張か ぶとれ
 類下ふもさくもたの字さへー○の 類より 出づ ぬ

れりたよこゝの字とらふよみのかーらふとさるの
 かーらふとさるよみのかーらふとさるの
 おの字さへーおほやけ公 ねほー多 おほけさく
 無及お ちる 生お ねみ 狼お うあ 女お ぬは せ何 お
 け思 く敷 ねほ尾 ねほ正 親護 町お うこ
 おう翁 應此 類明 より出は たりたかあるハれくのお
 の字用ゆへー○大の字御れ字付る文字ハ
 おほなり大 ねほよそ凡 おほさき大君 おほらち大内

〇く久〇や夜〇ま満〇け計

〇ふ婦きとねくのふとふ新よむじの改

とひくまくのふとひまふの通ふふのふ改す

べーはひふほふふなりおは思順

同て答た給た並か数た負たなふあふ

名ふおふの此類あり又ふのふとふのふと略

せりふとふとひふと日とふと略せりひふ通ふた

あふふのふとふとふの〇の聲れふのに音る下

ふの字ズべー法入葉蝶急押合答問左の類

なりうれ字ズべー〇或親小あの名れに音の

字よふと見あるとふハねなり拍子の拍の字入

聲陌の韻なりひやうーとずべーへうーとふ

なうす又あふむ鴨鳴のあふむなと割やハ

らぎくあふむとふとふとふとふとふ同例也

〇ふのふとふとふとふのふとふべーあふとふと略

強なりあふとふとふ漢書生にふ丹生よふかと漢書生ふとふ

○惠 是とおくのゑよりよものかいらよみの
 下ふあつてゆふかよらぬかゑ一字れゑ此二極三ふ
 ゑの字とべー上ふ半よハ音ハ訓ハ大やゑゑゑ
 通ハ訓ハ魚ハー〇ハみハのハかハらハとハゑハりハ標ハゑハひ
酔なりハけハ類ハなり〇ハ訓ハの下ハゆふかよらぬかゑとハ
非なりハ聲ハすゑハ末ハよハとハゑハ精ハゆハくハゑハ行ハ衛ハのハ略ハゑハ家ハ
 此類皆ゆふかよらぬかゑなりゑの字とべー
 えへの字とべうらびゆふかゑよらぬかゑとべうら

○一字の音ハ惠會ハ清ハ衣ハ祿ハ壞ハ此ハ皆ハなり又
せりハ會ハ清ハ府ハ大ハ賞ハ會ハ智ハ惠ハ輪ハ廻ハけハ皆ハ一字ハの
音なりゑの字とべーえの字とべうらす
 ○い非 是をたくのびらゑ此ハひハのハ字ハハハのハ字ハなり
標よハいハまハあハよハまハべハーハよハみハのハ下ハふハよハかハよハまハはハ二
極ふハいハおハくハのハひハとハまハ魚ハー〇ハ訓ハの下ハハハかハひハ貝ハ
とひハ灰ハやハまハのハうハひハ山ハ峽ハうハごハひハとハ鶯ハあハひハ和ハ名ハ新ハ
くひハ水ハ鷄ハ上ハよハろハひハ鐘ハたハひハ鵜ハこハひハ鯉ハいハひハ飯ハおハひハ舞ハちハひ

音韻考

〇開合の事

音の開合は里割の開合あり音れ開合の事をも
 あかさたなはまやらわの字上よりなむるこゝろを啓
 閉くしあうがうさうたうなうはうまうやう
 ろうわうの類なりをこゝろこのほもよろれの
 字よみはむるまゑは皆合ありをさうさうらう
 そうのうほうもうようろうねうなう又
 悉くせてねへめぬれ悉く合かまゝをさうけう

せうてうねうけうけうえうれうえうなり
 東冬蕭莖むの五類小属一なる并又三重類
 の内右れ平字の下小あれ上聲去聲は皆合かな
 かり是をこゝろこのほもよろねぬけせてね
 へめえれぬの付くる音れ此類ふあうか
 さうたうなうはうさうたうなうの
 むうくかあまへうの東冬の字皆さうとかく
 たうとひかむさうい合ありたうの同なり蕭莖

神祕文解

〇廿四

かみずべくろび。江の韻同韻なり。ゆゑふ米同半
 合とりよ説らば或ハまゝく合韻なりといふ二説
 用也へくど字書と考ふるふ同韻なることごとび
 れー。入聲ゆゑハ合洽の韻ニ属し。きる字ハ
 同かなり葉業の韻ニ属し。るハ合かなる也
 ○訓の同合れ事。○同ハ答こゝろ也
 買 買ハハカ
 舞 舞ハハカ
 堪 堪ハハカ
 習 習ハハカ
 捕 捕ハハカ
 旬 旬ハハカ
 旬 旬ハハカ

傳	傳ハハカ	傳	傳ハハカ
唱	唱ハハカ	構	構ハハカ
申	申ハハカ	詣	詣ハハカ
伴	伴ハハカ	○合ハ	○合ハ
乞	乞ハハカ	襲	襲ハハカ
吠	吠ハハカ	調	調ハハカ
思	思ハハカ	昨日	昨日ハハカ
競	競ハハカ	呪	呪ハハカ
		押	押ハハカ
		忝上	忝上ハハカ
		倡	倡ハハカ
		向	向ハハカ
		拾	拾ハハカ
		醉	醉ハハカ
		賔	賔ハハカ

和字解

〇三

或説ふ上小かまのりこ色を又ん〇下小
 うさかまの事六かたあつなむ入ありありみ
 ○上下かまううさかまのりこ色を又ん〇下小
 けをれもたてあさし

延享五年辰正月吉辰

大坂鉄橋宮川町
 土佐屋喜兵衛

明治世一年一月廿七日需之

和漢洋書藉出版所

幾行者

青木恒三郎

大坂市南区安堂寺町甲目

製本發賣所

高山堂本店

大坂市心齋橋筋安堂寺町

東京市南橋馬町三丁目

高山堂支店

勢州四日市港登町

高山堂分店

全

全

